

流星群の季節

冬には2つの活発な流星群が楽しめます。3大流星群として数えられる、ふたご座流星群と、しぶんぎ座流星群です。流れ星に出会うチャンスですよ!極大日(ピークの日)だけではなく前後1,2日もチャンスがあります。お天気の良い日に空を見てみましょう。

極大日(ピークの日)

ふたご座流星群……12月14日
しぶんぎ座流星群……1月4日



流星群では、ある1点(放射点)から流れ星が飛び出すように見えます。放射点がある場所の星座から、〇〇座流星群と呼ばれます。ちなみに、「しぶんぎ座」は、今のりゅう座・うしかい座のあたりに昔あった星座で、今はもうありません。しぶんぎ(四分儀)というのは、天体観測に使っていた道具の名前です。

流れ星は放射点の近くだけでなく空全体に流れるので、「空を広く見渡すこと」をおすすめします。そして「暗さに目を慣らすこと」も大切です。どちらも明るい月がある日なのであまり条件は良くありませんが、月のない方角を主にしてみると良いでしょう。寒い季節なのでしっかりと防寒して観望してみてくださいね。



観望会のご案内

札幌市天文台

【中島公園内】
(コンサートホールKitaraと豊平館の間)

【問い合わせ】
☎011-511-9624 (札幌市天文台)

★昼間公開

※12月29日～1月3日は休台

日 程

火曜日 10:00～12:00

水曜日～日曜日 ①10:00～12:00
②14:00～16:00

観望対象

太陽、昼間に見える星



▲札幌市天文台では口径20cmの屈折望遠鏡で星を観望することができます。

★夜間公開 ※電話予約が必要です(科学館 ☎011-892-5004)

12月の日程

12月9日(金)～11日(日)
18:00～20:00(受け付け11月15日9:00～)

観望対象

月、木星、火星、秋から冬の星座の星

1月の日程

1月20日(金)～22日(日)
18:00～20:00(受け付け12月15日9:00～)

観望対象

木星、火星、冬の星座の星

2月の日程

2月3日(金)～5日(日)
18:00～20:00(受け付け1月15日9:00～)

観望対象

月、火星、冬の星座の星



— 科学の今と未来をつなぐ —
札幌市青少年科学館
Sapporo Science Center
(札幌市青少年科学館 指定管理者 公益財団法人 札幌市生涯学習振興財団)

【休館中飯事務所】〒063-0051 札幌市西区宮の沢1条1丁目1-10(ちえりあ内)
【TEL】011-892-5001 【FAX】011-894-5445 【ホームページ】https://www.ssc.slp.or.jp/



長期休館のお知らせ

展示物大規模リニューアル・施設の長寿命化等のための改修工事に伴い、2022年8月22日より休館しています。(～2024年3月末予定)

2022年
冬号
Vol.104

札幌市青少年科学館天文情報リーフレット
星空散歩
H O S H I Z O R A S A M P O

今回の表紙写真は...「火星と冬のダイヤモンド」

中央やや上あたりで、火星が明るく輝いています。さながらダイヤモンドに包まれたルビーのようです。

撮影者：金吉証弥 撮影日：2022年10月26日0時30分ごろ
撮影地：千歳市支笏湖 データ：Canon EOS R6 / 14mm F1.8 ISO3200
シャッタースピード6秒

表紙の写真募集中!

あなたの写真が表紙になるかも!

詳しくは...

札幌市青少年科学館 星空散歩

検索



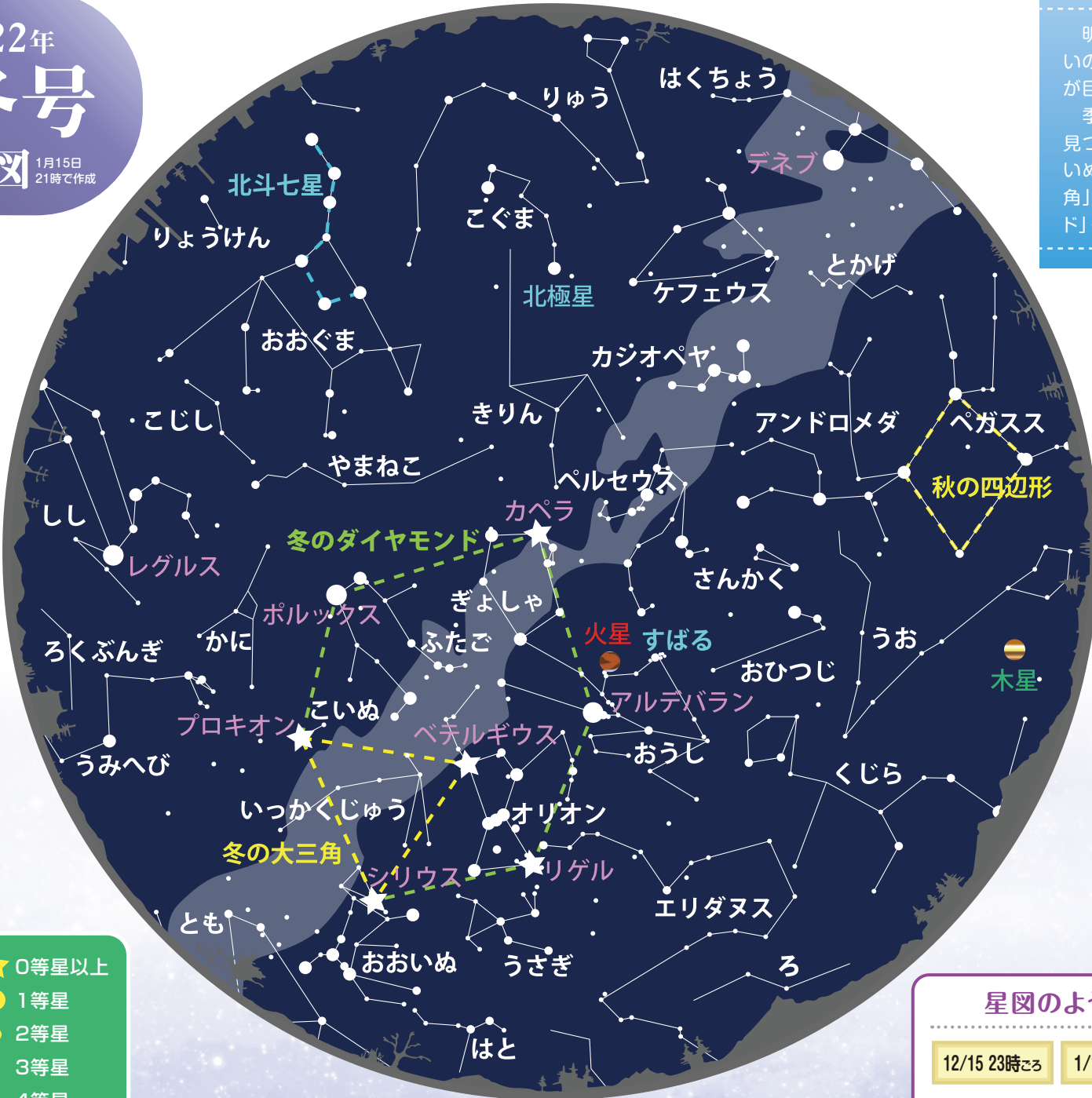
2022年 冬号 星図

1月15日
21時で作成

測

北

南



- ★ 0等星以上
- 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星

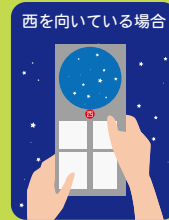
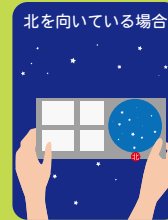
明るい星がたくさん昇り、星探しが楽しい季節です。最も明るいのは西の空で輝く木星です。南の空の高いところには赤い色が目立つ火星も見えています。

季節の星では、砂時計のような星並びが特徴のオリオン座を見つけやすいでしょう。オリオンの肩の星ベテルギウスとおおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオンを結ぶと「冬のダイヤモンド」も見つけられます。

星図の 使い方



- ①星図は空にかかげて使います。
- ②空にかかげたら、自分の向いている方角と星図の方角とを合わせて星を探しましょう。



星図のように見える時刻

12/15 23時ごろ

1/15 21時ごろ

2/15 19時ごろ

惑星の位置は変化するため、1/15の位置を示しています。

月のかたち

- 満月 12/8、1/7、2/6
- ◐ 下弦 12/16、1/15、2/14
- 新月 12/23、1/22、2/20
- ◑ 上弦 12/30、1/29、2/27

星を見よう!

火星



真っ赤に輝く「火星」。ちょうど見ごろを迎えています。2022年12月上旬が最も明るく-2等級ほどになります。火星は地球に約2年2か月ごとに近づきます。近いときと遠いときでは明るさが大きく変わるので、この機会に見てみましょう。

火星のような惑星は毎年同じ時期に見られるわけではなく、星座の星の中を動いていくように見えます。おうし座のアルデバランのそばを移動していく様子も観察してみてください。

◀画像:NASA and the Hubble Heritage Team (STScI/AURA) Acknowledgment: J. Bell (Cornell U.), P. James (U. Toledo), M. Wolff (Space Science Institute), A. Lubenow (STScI), J. Neubert (MIT/Cornell)

星座のおはなし

おうし座のおはなし

描かれている牡牛は、ギリシャ神話では大神ゼウスが変身した姿とされています。

美しい王女エウロペに恋をしたゼウスは、真っ白な牡牛に姿を変えて彼女に近づきました。そしてエウロペが牡牛にまたがると、そのまま海を渡って連れ去ってしまったのです。

エウロペが渡った先の大陸は、彼女の名前からヨーロッパ (Europe) と呼ばれるようになりました。

また、牡牛の肩のあたりに輝くプレアデス星団は、月の女神アルテミスに仕えるプレアデス7人姉妹ともいわれます。プレアデス星団は日本では古くから「すばる」と呼ばれて親しまれています。



みつけ かた

見つけやすいオリオン座を頼りに探すと良いでしょう。オリオン座の西側を見ていくと、おうし座の目の位置で輝くオレンジ色のアルデバランが見つかります。周りの星を結ぶとVのような星並びを迎えることができます。ここが牡牛の顔の部分で、そこから2本の大きな角の星並びも見つけることができます。この冬の間は明るい火星が近くに見えているので、目印になってくれるでしょう。

● 12月…南東の空20時ごろ ● 1月…南の空20時ごろ ● 2月…南西の空20時ごろ